

次 第

日時：平成 26 年 11 月 5 日（水）午後 1 時 30 分から

場所：掛川市庁舎 5 階 全員協議会室

1 開 会

2 あいさつ

会 長 こんにちは。今日は第 4 回目でございます。前回の資料で第 3 章「計画の基本方針」の部分ですが、文章、内容等再考すべきではないかというご意見をいただきました。過日、事務局と私とで若干意見交換、練り直しをさせていただきました。またその後、庁内での検討もいただいて、今日お手元にお示しをする形にまとまりました。今日のところで基本的な部分はたぶん終わりになろうかと思えますけれども、また色々なお立場からご意見を頂戴できればと考えております。よろしくお願い致します。

佐藤部長あらためまして皆さんこんにちは。それぞれ大変お忙しい中、本年度第 4 回目となる会議にご出席いただきましてありがとうございます。これまで、委員の皆様方から色々ご意見を頂戴致しまして、概略と言いますかまとまりの部分になってきたということでございます。今後のスケジュールはまた後ほど担当のほうからお話をさせていただくのですが、11 月の中旬には市議会議員の皆様にご説明、ご報告をさせていただこうと思っております。その後、パブリックコメントを 11 月末から約 1 か月行いまして、市民の皆さんからご意見を頂戴して、それをまた反映させていただく中で、2 月にはこの会議で最終決定をしていただき、年度末に策定を終了すると、こんな計画でございます。今日は全体にわたって、特に先般色々ご意見をいただいた基本理念、計画の体系、基本目標、この辺が一番重要な部分となつてこようと思っておりますが、その部分と全体の構成についてもご意見を頂戴したい、このように考えております。よろしくお願い致します。

3 協議事項

(1) 掛川市子ども・子育て支援事業計画（案）について

・事務局より説明

会 長 いかがでしょうか。どの部分からでも構いません、ご質問等ございますでしょうか。

委 員 かなり練ってあってよく考えてある。p 45 基本理念の下から 5 行目、子どもの健やかな育ちを保障し、子どもの最善の利益を守ることは社会全体の責務であると、これは子ども・子育て支援法の理念に沿って入れていただいたと思うが、p 1 の計画策定の趣旨にうまくリンクしていないので修正していただきたい。具体的には下から 8 行目、「今後は、子育てに対する孤立感や負担感を抱える家庭への支援をはじめ、結婚や出産・子育てしやすい環境づくりなど、子どもを生き育てることをめぐる諸課題を解決するため」、これは大人視点で書かれている。これは方策であって、理念としては子どもの最善の利益、子どもたちが生きやすい世の中にしていくにはどう

したらよいかというのが最大の目的であって、それを一文入れて、子どもの最善の利益が阻害される恐れがある子育てに対する孤立感や負担感を抱える家庭への支援をはじめ、というような書きぶりのほうがよいのではないか。同じく p 1 で、「新しいシステム」となっているが「しくみ」という言葉にしたほうが無難ではないか。 p 56 取り組み・事業の①人材育成のところ、ブランコの会への支援がある。どうしてこれだけ個別の名称が書いてあるのか。他の会も入ってよいのではないか。

事務局 p 56 はご指摘のとおり固有名詞で出ているが、その他の組織も支援しているので、言葉は検討させていただく。1 点目も事務局サイドでもう少し詰めるが、委員の皆さんのご意見もいただいて検討する。

委員 p 67 (3) 子育てと仕事の両立環境の確立のところの掛川市創生本部会議の内容は、今後の取り組みとどう関連していくのか。人口減少対策など活力ある地域づくりを目指すのであれば、現状の企業と新しい企業力の活用などを見据えているのか。

事務局 掛川市創生本部会議は、子育てと仕事の両立だけでなく、人口減少が大きな課題になる。書き方は検討させていただく。また、取り組みや事業の書き込みがないので、理念的なものになるかもしれないが加筆していく。

委員 もう少し幅広く記載していただくとよい。

会長 用語の解説は作成中となっているが、具体的に何をするのかここへ加えるとわかりやすいのでご一考を。

委員 第3章計画の基本方針の1計画の基本理念の中に幼保一元化を全国に先駆けてやってきたと書いてある。 p 48 基本目標1の施策1-2(1)にも幼保一元化があり、 p 55 にも出ているが、行ってきたことをどう捉えているか書かれていない。6幼保園を旧掛川でやってきた自負というか、成果や課題もあったと思うが、もう少し施策の中に入れていったほうがよいのではないか。

事務局 平成23年度に取り組んできた成果と課題を5~6ページでまとめている。この計画の中にすべて入れるのは難しいが、成果を入れるのはよろしいと考える。新制度の中で解決されている部分もあるが、第1編第1章の6として、新しい項目を設定し入れるようにする。

会長 一般的に幼保一元化とは、法律も一つにしてすべてを一つにするという言葉。現実には幼稚園と保育園の二元化であり、掛川の場合は一元化と言ってよいか引かかる。具体的内容は重なってきているが、厳密には一元になっていない。掛川的一元化にするなども考えられるが言葉づかいについて少し気になる。

事務局 国の資料にどう盛り込んであるか精査してみる。

委員 p 56 施策1-2(2)取り組み・事業の③発達支援を要する幼児への対応のところ、発達支援センターめばえのことを入れておいていただくと、私たちも動きやすい。人口は減ってきているのにこういう子は増えてきている。 p 59①施策2-1(1)①利用者支援事業は、105頁を参照すると子育てコンシェルジュが出てくる。 p 59の①と③は重複しているのか。

事務局 ①利用者支援事業(子育てコンシェルジュ)など表記を修正する。発達支援センターも追加する。

委員 基本理念のところ、妊娠・出産期からの切れ目のない子育て支援環境づくりを目指しますと

あって、母子手帳をもらうのは徳育保健センターで、そこで保健師とのつながりが始まる。子どもの人数は減っているのに支援が必要な子は増えているというところで、そういう子どもたちはお母さんたちが育てにくさを感じる子どもたちだと思う。地域のコミュニケーションが薄れてきてお母さんたちは孤立気味で相談するところも少ない。子どもの発達の相手をするプロは保健師なので関係性が重要になる。今、ひよこ、こっこという相談教室があるが、人数があふれている。保健師が抱える案件が多すぎるのではないかと。まず保健師を増やすこと。仕事量が減れば一人ひとりの子どもたちにもっと厚い手当てができる。以前から会議でも意見が出ているが、家庭で子育てをしている人たちへの支援が必要である。今子育てコンシェルジュが新たにできたが、コンシェルジュに相談しても、発達のことなどは保健師に話していく。任務は重要になるので保健師を増やすと明記してもらえるとよい。掛川は子育てしやすくなり、人口減少防止にもつながる。前回の会議で、掛川で子育てをしていていいことがなかったという人がいたが、市としては子育て支援にお金も人も投資していくという方向性を書いてもらいたい。

事務局 赤ちゃんから大人のがん検診まで保健師の活動は幅広い。地域の力もお借りして地域のプロと連携して進めているが、大変ありがたいご指摘。

会長 p 52、53 から関わりが出てくると思うが、この辺に入れたほうがよいということか。

委員 悩むところだが p 56 に人材確保がある。保育者のということだと入れられないが施策 1 - 1 あたりに増員と入ってもよい。

委員 磐田、袋井では助産師との連携をしているが、掛川市とはやっていない。保健師の増員はもちろん大事だと思うが、助産師会も出していただきたい。妊娠期とか性教育もそうだが、私もかなり担当していて、掛川の親子相談はいっぱいである。先日も行ったら午前中で6件の無料相談を受けた。助産師の活用を掛川でも方向性を出してもらえると、例えば今自宅にいて勤務していない助産師もお手伝いができると思うので、専門職者の人材育成について、一文出していただけるとありがたい。

会長 ここへというのは難しいが、事務局でご一考いただけるか。

事務局 保健師の増員や助産師の育成は、考えて対応させていただく。方向性を盛り込むという形になるかもしれない。

委員 例えばNPOとか団体との連携はどう明記されているのか。ほとんど書いてないのではないかと。年齢の高い人の雇用や国との連携も含めて何か書いてあるとよい。

事務局 助産師会やNPO法人、市民活動団体は色々ある。今回、基本目標として3つの視点をあげ、具体的には書いてないが地域の視点のところに協働して子育てに取り組むというスタンスは目標の中に入れてある。

会長 p 56 の人材育成は保育者に限定されている。新しく免許を取る人の促進はよく言われているが、第一線から退いたが資格を持っている人の数はかなりある。労働条件が合わないで働いていないという話も聞く。潜在的な有資格者の活用も大事だと思うので検討を。

委員 シニアの力ということがある。力になりたいと考えている人たちは多いので、子育てや介護の場で活用できると思う。

委員 p 63 に施設の再編がある。再編は地域にとって簡単な問題ではないため、再編のための推進組織を早急に設置してほしい。

- 委員 資料1のp3に放課後児童クラブのことがあるが、高学年を受け入れられるのか早く伝えてほしい。11月には就学児の健診があるので早いほうがいい。
- 事務局 学童保育は例年、11月に募集が始まる。現状では3年生までのところと6年生まで受け入れているところがある。来年度に関しては受け入れられるだけ受け入れるという形になる。その後学校等の利用を検討していく。早めにお話させていただく。
- 委員 この計画は平成27年度から平成31年度までの5か年の計画だが、PDCAで回していくことになるのか。他のものも目途があるとPDCAしやすい。南部の計画も具体的な年度を入れてはどうか。p66 施策3-1(2) 地域が主体となった子育て支援の充実と、p67 施策3-1(3) 子育てと仕事の両立環境の確立は取り組みや事業がないので入れてほしい。地域が主体の子育て支援においては、地区福祉協議会やふくしまも活用してもらいたい。
- 委員 p67 につどいの広場があるが、地区福祉協議会で子育てサロンを積極的にやっているの、つどいの広場の前に記述してほしい。
- 事務局 追記する。p66①には子育てサロンを入れてあるが、書き方は検討する。地区主体でやっていただく事業については、地区まちづくり協議会が立ち上がっている。
- 委員 p59~60に経済的負担の軽減があるが、国・県の動向に合わせて何を対応するのか。子どもの貧困と言われており、15%、16%もいると思われるが、掛川市でもそうだと思う。学校の先生はどうお考えか。東京や埼玉では市が委託して学習を支援しているらしい。将来のことを考えると大事なことだと思う。学校の実態を教えてください。この計画に何か入れられないか。
- 事務局 格差という言い方が適切かどうかかわからないが、現実的にはある。就学支援の要請があれば対応しているが、数は増えている。適切な支援が必要なことは間違いない。放課後の支援事業は社会教育課と関わってくるし、発達支援のところも関わってくるので、そうしたところと連携していく必要もあるし、学校教育は子どもたちを支える第一の砦として、きちんと守っていききたい。皆さんのご支援をいただきながら、この計画を一緒になって進めていきたい。
- 委員 p50 基本目標3(2)で、地区に色々な人がいるのはよくわかるが、リーダーシップをとって横のつながりを取る人がいない。それぞれが活動してつながっていない。例えば人材育成も人材登録制度の拡充など色々あるが、助産師、保育士、保健師、保育ママの育成、それをどうつなげて連携させていくのか欠けている気がする。地域で潜在している人材を活用し、連携させてあげるつながりをつくって行って、地域ぐるみでその体制の構築を目指すというような内容や、リーダーの育成を計画に盛り込んでいただきたい。
- 事務局 掛川市が標榜している協働のまちづくり。これは去年の4月1日に自治基本条例をつくって、今年の10月1日から住民投票条例が施行されている。今、協働のまちづくり推進条例を制定していこうということで、協働でまちづくりをする、人づくりをするときの目標であったり、推進体制であったりというのは、そちらの条文で明文化する。子育て施策もこれに沿った進め方をしていく。
- 会長 初めてお示しいただいたという部分もあるので、事務局としてはいつまでに意見が必要か。
- 事務局 11月11日に市役所内の会議があって議会へ中間報告していくため、意見のある方については7日を1回目のメットとした。その後パブリックコメントをやるのもう一度変更の機会はある。今年中にご意見をいただければ計画の修正は可能である。

会 長 パブリックコメントは今日の意見を反映して出すのか。どこかでまとめて修正するのか。

事務局 今日の意見も反映してパブリックコメントにかける。

会 長 パブリックコメント前に委員に郵送してもらえるか。

事務局 10月31日の庁内委員会での意見と今回の意見を反映して郵送する。

会 長 変更点を網掛け等にしてもらえると見やすいのでお願いしたい。

事務局 そのようにする。

会 長 施策の展開のほうで色々な検討ができた。パブリックコメントにかける計画案をお送りいただけるので皆さんご確認を。

#### 4 閉 会